

APP 環境新聞

発行日 2023年3月31日

発行者 エイピーピー・ジャパン株式会社



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



PEFC チャンピオン企業の記念盾が贈呈されました

森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 活動報告<6>

エイピーピー・ジャパン株式会社 (APPジャパン) とユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP) は、売上の一部をベランタラ環境保護基金 (ベランタラ基金) に寄付してインドネシアの自然林を再生する「森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~」を行っています。



育苗場の整備

2022年8月から、植樹第4期のエリア選定の調査に入りました。ベランタラ基金が重要視している点が4つあります。①ギアム・シアク・クチル=ブキット・バトゥ (GSK-BB) 地域と同景観内であること、②最寄り主要都市 (プカンバル) からアクセスしやすいこと、③関連する政府機関、地域コミュニティなどから支持されるエリアであること、④パーム植林地などに転換されていないこと、です。

検討の結果、ミナス・タフラ地区が選ばれ、ベランタラ基金、ブルトウア村森林農業グループ、ミナス・タフラ森林管理ユニット (KPHP) 参加のもと、③を象徴するような懇談会が2022年10月に開催されました。その場で各組織の役割が話し合われ、森林農業グループが苗木の準備、KPHPが植樹エリアのパトロールを担当し、ベランタラ基金が行う植樹とモニタリングには双方とも参加することが決まりました。



また、KPHPからは使用していない育苗場を再生して受け継ぐことにしました。今後、植樹の苗はこれまでのアララ・アバディ社 (APP植林会社) に加え、2023年初頭からは森林農業グループがこの



苗木を準備する森林農業グループのメンバー

森で採取した種で育てる苗も使用します。(次号に続く)

「森の再生プロジェクト」紹介動画を公開



「森の再生プロジェクト」の紹介動画を YouTube で公開いたしました。これは、昨年12月のエコプロ出展に向けて作成したものです。

プロジェクトの仕組みやこれまでの実績を、インドネシアの美しい森林や動植物の写真と共にご紹介しています。APPジャパンがお客様と一緒に森林再生にどのように取り組んでいるか、この活動がどれだけ貢献できているのかをお伝える内容になっています。

3分半ほどの短い動画ですので、是非一度、ご覧になってみてください。

「森の再生プロジェクト」紹介動画

<https://www.youtube.com/watch?v=9TrUqwgGmUE>

APP中国工場の製品も「森の再生プロジェクト」対象です



ハローバッグ様のペーパーバッグ

APPはインドネシアだけでなく中国にも主要な生産拠点を持っています。中国工場生産された日本向け製品もほぼ全てがPEFC認証紙であり、「森の再生プロジェクト」の対象製品です。

コート紙などの印刷用紙や、高級白板紙などの産業用紙が中国工場で作られていますが、これらの原紙を加工・印刷した紙製品や印刷物にもプロジェクトロゴを付けることができます。

この度、当社の片面コート紙を使用した株式会社ハローバッグ様のペーパーバッグに、プロジェクトロゴが付くことになりました。このように、お客様自身のSDGsに向けた取り組みとして展開いただけます。

他の事例は、「森の再生プロジェクト」紹介動画をご覧ください。

APP中国 サステナビリティ報告書を公開

昨年12月に、APP中国のサステナビリティ報告書2021の英語版が公開されました。APP中国全体、並びに各工場におけるESG各種取り組みについて説明しています。以下のリンクからご参照ください。

<https://x.gd/FU86Y>



「森の再生プロジェクト」の現場 ミナス・タフラを訪問

2023年1月17日と2月28日、当社の取り組みを視察する目的でインドネシアを訪問されたお客様と一緒に、「森の再生プロジェクト」の現場であるミナス・タフラ地区の「スルタン・シャリフ・ハシム大森林公園 (SSH)」を訪ねました。ジャカルタから飛行機で一時間半ほど、スマトラ島中部にあるリアウ州のプカンバルという街に向かいます。APPの紙パルプ工場 (IKP工場) はプカンバルから車で約90分のところにありますが、SSHは街と工場の間にあります。

しかし簡単にアクセスできたのは森林管理事務所までで、その先はうっそうとした森になっており、特に1月訪問時は前日に降った雨によって道がぬかるんでいたため、轍にはまって車が動けなくなるような悪路を小一時間ほど登ったり下ったりして行きました。

SSHの面積は6,100ヘクタール (ha) で、一部は公園になっていますが大部分は自然林でした。今でも228種の植物、27種の哺乳類、136種の鳥類、15種の爬虫類・両生類の生息が確認されている豊かな森林です (そのうち9種は絶滅危惧種)。ところが、その半分以上が焼き畑で荒れてしまい、今では状態の良い森林は2,500haしか残っていないということです。近隣の農民が違法に焼き畑を行ってパームを植林したのがその原因ですが、彼ら自身も都市部の富裕層に植林と収穫の時だけ雇われる小作農であるとのことでした。そのあたりは、インドネシアの社会課題の深刻さを痛感されます。

今回は、パームが植えられないことなく放置された野原に記念の植樹を行いました。メランチなどの自生種を植えて肥料と水をやり、この地道な作業の積み重ねがなければ森林再生は成し遂げられないことを再認識させられた訪問でした。



2023年1月に現地スタッフと記念植樹を行った様子

PEFCジャパンより チャンピオン企業記念盾が贈呈されました

SGEC/PEFCジャパンでは、PEFC認証制度を支持し、その拡大と認知向上のために市場の先導・牽引を期待されるチャンピオン企業を選定しています。2022年はAPPジャパンが選ばれ、梶谷専務理事/事務局長と堀尾氏より記念盾を贈呈されました。今後ともPEFC認証拡大に努力してまいります。(本誌表面に関連写真)

ペーパー・ビジネス・レビューに APP特集記事が掲載

紙パルプ業界誌『ペーパー・ビジネス・レビュー 2023年4月20日号』において、APP特集記事が掲載されました。

業界内で世界有数の生産能力と森林管理面積を持つAPPの全容と、2013年以降のサステナビリティに関する取り組み、日本での活動が網羅的に記載されています。ぜひ一読ください。

FOODEX JAPAN 2023 にAPPとして出展

2023年3月7~10日、APPジャパン及びUPの本社であるアジア・パルプ・アンド・ペーパー (APP) が東京ビックサイトで開催された「FOODEX JAPAN 2023」に出展しました。

「foopak bio natura」ブランドなど、食品・飲料パッケージ向けの環境配慮製品の加工サンプルや、日本で販売している「森の再生プロジェクト」対象製品などを、国内外の多くの来場者に紹介しました。



ご来場いただきありがとうございます

日経ESG4月号に 「森の再生プロジェクト」記事が掲載

『日経ESG 2023年4月号』に、当社が推進する「森の再生プロジェクト〜いっしょにSDGsに取り組もう!〜」に関する記事が掲載されました。

本活動を立ち上げた背景、現地での活動中に直面した困難などのエピソード、現在の進捗とお客様に共感していただけて拓がりを見せている様子について記載されています。詳しくは下記URLをご覧ください:

<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00007/032800100/>

DCM様よりスペシャルアワードの表彰を受けました

APPジャパンは、ホームセンター大手のDCMホールディングス (以下、DCM) 様より、社会的変化への対応・貢献を協業により実現したサプライヤーとして2022年スペシャルアワード表彰を受けました。

これはDCM様がSDGs達成に貢献する商品の採用を推進する中で、APPジャパンおよびUPが製造委託を受けているDCMプライベートブランドのコピー用紙とキッチンタオルに関して、「森の再生プロジェクト」対象製品として採用されたことによるものです。

私たちの提案が実際にPB製品として採用され、賞まで授与していただくことになり、改めて感謝すると共に、期待に違わぬようプロジェクトの推進と発信を行ってまいります。



森の再生プロジェクト 参加方法

1. 「森の再生プロジェクト」対象の紙製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方
→ APPジャパンにご連絡ください (sustainability@appj.co.jp)

APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます

<http://www.app-j.com/topics/1673.html>